

♠ ♠ ♠ 平成30年度総会を開催 ♠ ♠ ♠

5月26日(土)午後1時30分からチューリップ公園内の旧中嶋家において、総会を開催しました。今年も、えんなか会でも活躍しておられる柏樹直樹さんに囲炉裏に火をくべてもらい、旧中嶋家住宅とともに出席者もその煙で燻されながら議事を進行しました。

総会には、13人が出席。開会のあいさつで、出村忍代表幹事が、平成29年度は初の取り組みとして砺波東部小学校で出前講座を実施したことなどを話しました。これは、今回総会の添付資料にもあるとおり、次世代を担う子供たちにカイニヨを理解してもらうための取り組みで、前年度の総会でその必要性を提唱し実践したものです。先生方にまず理解してもらうために座学と現地見学をしたうえで、子供たち(3年生)の授業に直接参加しカイニヨの存在意義と現代的役割を知ってもらうことができました。子供たちは、後日学習参観で、散居村とカイニヨについて学んだことを発表しました。

また、当倶楽部が、砺波地区生涯学習団体協議会に加入したことを報告、倶楽部員の皆さんが広く学習の機会を活用してほしいと話しました。

当倶楽部は、となみ散居村ミュージアムと趣旨連携することも多くあり今年は第7回の講座で扇状地流域見学会を連携して開催することとしています。詳細が決まりましたらみなさまにご案内しますのでせいぜいご参加ください。第5回の講座には天野一男幹事が講師を務めます。…案内チラシ別紙同封。

総会の議事は、平成29年度の事業報告と会計報告、監査報告があり、満場一致で承認されました。平成30年度は、引き続き子供たちにカイニヨの良さを伝える出前講座を実施すること、見学会や掃除の活動に取り組むことを提案、時期については十分に検討したうえで実施することで承認されました。

天野一男事務局が幹事に退任し、後任に高畑邦男幹事を選任しました。



今年度の総会では、講演等は行わず、発足以来20年を超える当倶楽部の活動や運営について出席者が思いのほどを語り合いました。主な発言は、・・・(裏面記載のとおりです。)

♠ 今回の送付資料

- 総会資料
 東部小学校出前講座の講演内容
 中嶋家カイニヨの伐採について
 会費のお知らせ(納入済みでない方)
 となみ散居村学習講座のチラシ
 砺波地区生涯学習団体協議会の資料

今年度の総会では、発足以来20年を超える当倶楽部の活動や運営について出席者が思いのほどを語り合いました。

主な発言は、・・・

- 見学会やお掃除例会でカイニヨのあるお宅を訪問することの意義は、行って家族を激励し我々がその苦勞を知ることにある。
- いいことは、「いいねえ!!」ということである。
- 息子は近くに家を建て別居しているが、家の周りをコンクリートで固めてしまった。孫たちは、カイニヨがあって緑豊かで土や砂がありいろんな生き物たちがいる私の家に来て自然の中で遊び放題。近所の子らも遊びに来る。家の中は、クーラーも扇風機も要らない。
- そんな家の子とマンション10階で暮らす子とどっちがいいのだろうか?
- カイニヨを守るための会だと思うが、目的は? 空き家も多くてカイニヨを守るどころではない。
- 散居村ミュージアムでは屋敷林を考えていると思うが、我々の会としてはどうするのか?
- 見学会では樹木とかかわる。かつてアンケートを取ったが、庭木の剪定から地球環境まで広い関心事を持っておられる。全部合致するが、絞りようがない。掃除もするが、植樹もしてきた。てんでんの思いがあり、生活の中で取り組んでもらう。
- 7~80人の会員がいて、活動には20人不足。倶楽部がどんな方向に進んでいるのか? 目的意識をしっかりと!!
- 東部小学校でカイニヨを残そうという取り組みは素晴らしい。これが広まることを期待する。この旧中嶋家で総会することも素晴らしいことだ。
- 大切な家、大切な屋敷林も5年で衰退する。止められない。いい屋敷林はある。社会全体で人が減ることは、脅威だ。
- 50年前に嫁に来た。昔は、切ると貧乏した。今は、切るお金もないのか、樹の価値が変わった。外からいいねと言われるとうれしい。でも世話が大変。死ぬに死ねない。残すに残せない。子供らにどう伝えるか。樹があると貧乏する。ささやかな運動で心を育てる。
・・・などなど

◆カイニヨお手入れ支援隊について

小矢部園芸高校専攻科の卒業生・在校生を中心に、となみ散居村の景観を守るために、高齢のため自宅で十分な手入れができないお宅などの支援活動を実施しています。当倶楽部の幹事も務める松田憲氏が中心になって、年間数回の支援活動です。剪定枝葉の収集運搬運び出しなど誰にでもできる作業もあります。日本の農村の原風景;となみ散居村のカイニヨを守り残すために、みなさまも活動の輪を広げてみませんか。

◆(仮称)全国屋敷林ネットワークについて

となみ散居村ミュージアムで以前に講演と写真展を開催された石村眞一氏(九州大学名誉教授・郡山女子大学特任教授)が中心となって、「(仮称)全国屋敷林ネットワーク」をつくる準備が進んでいます。屋敷林の緑を大切に保全している全国の市民レベルでの横のつながりを目指すものです。そこで生活している人も、景観として大切にしたいと思っている人たちも、写真に撮って楽しんでいる人たちも、関心を持っている人はみんなつながろうと考えています。全国の屋敷林情報を共有し交流することができます。

詳細は、順次お知らせします。